



CQM(超短期経済予測モデル)

稲田義久(APIR 研究統括)

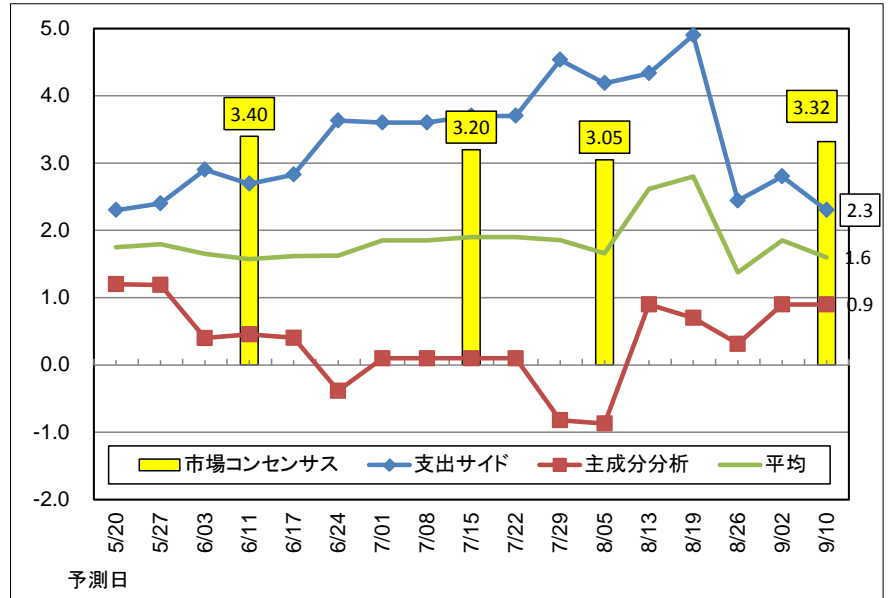
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:inada-y@apir.or.jp

日本経済(週次)予測(2013年9月10日)

ポイント

- ▶GDP2 次速報値によれば、4-6 月期の実質 GDP 成長率は前期比年率+3.8%となり、1 次速報値から 1.2%ポイントの上方修正。
- ▶上方修正の主要因は、民間企業設備、民間在庫品増加及び公的固定資本形成である。民間企業設備は 6 期ぶりのプラス成長に転じた。
- ▶7-9 月期の経済を予測するうえで、7 月の消費総合指数の重要性を先週指摘した。結果、7 月の消費総合指数は前月比 2 ヶ月連続のマイナス。
- ▶7-9 月期経済にとって、民間企業設備は反転拡大が期待できるが、民間消費は新たなリスクとなっている。
- ▶今週の支出サイドモデルは、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+2.3%と予測。内需拡大のスピードは前期から加速するが、純輸出は一転前期から縮小するからである。民間最終消費支出予測の下振れにより、先週の予測からは下方修正。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013 年 7-9 月期 (%、前期比年率換算)



＜7-9 月期日本経済：企業設備は反転拡大が期待できるが、民間最終消費は新たなリスク＞

9月9日発表の GDP2 次速報値によれば、4-6 月期の実質 GDP 成長率は前期比年率+3.8%となり、1 次速報値(同+2.6%)から 1.2%ポイントの上方修正。結果、最終週の CQM(支出サイドモデル)予測は 2 次速報値にピンポイントとなった。上方修正の主要因は、民間企業設備、民間在庫品増加及び公的固定資本形成である。民間企業設備は 1 次速報値の同-0.4%から同+5.1%へ上方修正され、6 期ぶりのプラス成長に転じた。

今週の予測に新たに追加されたデータは、8 月の乗用車新車販売台数、財政資金対民間収支、景気ウォッチャー調査、消費動向調査、7 月の毎月勤労統計、消費総合指数、情報サービス売上高、景気動向指数、国際収支状況及び 4-6 月期 GDP2 次速報値である。

先週(日本経済 8 月予測)、7-9 月期の日本経済を予測するうえで、7 月の消費総合指数の重要性を指摘した。結果、同指数は前月比-0.1%低下し、2 ヶ月連続のマイナス。4-6 月期平均比-0.5%低い水準となった。先に発表された 7 月の全世帯の実質消費も 4-6 月期平均比-0.4%低い水準にとどまっており、消費総合指数の動きと整合的である。7-9 月期経済にとって、民間企業設備は反転拡大が期待できるが、民間最終消費は新たなリスクとなっている。

今週の支出サイドモデルは、7-9 月期の実質 GDP 成長率を前期比年率+2.3%と予測する。内需拡大のスピードは前期から加速するが、純輸出は一転前期から縮小するからである。民間最終消費支出予測の下振れにより、先週の予測(+2.8%)からは下方修正となっている。

- ・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
- ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
- ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6485-7690